

科目責任者 菱沼 滋 (薬効学教室)

■ 教育目的

薬理学Ⅰ・Ⅱで学んだ神経系・免疫系・オートクオイド関連薬を基盤として、各種疾患に対する治療薬に関して臓器・組織毎に総合的に俯瞰するとともに、最新の治療薬の作用機序と有効性・安全性に関してより広く深い知識へと発展させる。マルチメディアを活用した講義とサイバーキャンパスを利用した復習システムを導入し、さらに、課題などを通じ自ら能力を高める意識を醸成することによって、薬理学の応用力を身に付け、薬の専門家としての資質の基盤を形成する。

■ 学習到達目標

1. 既存の治療薬の作用機序及び個々の薬物の特徴が理解できる。
2. 治療薬の変遷及び新規承認薬の新規性が理解できる。
3. 薬理学的能力を研究・開発及び臨床に応用できる。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：テキストの該当部分に予め目を通しておく。

復習：テキスト、授業録画、関連問題（国試・定期試験）等を活用し、知識を整理する。

■ 授業内容

下記の項目に関して、テキストをスクリーンに提示しつつ、薬物の作用機序、薬物名、個々の薬物の特徴などを説明する。

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	泌尿器系に作用する薬	利尿薬	C13 (3) -3-1 C13 (3) -7-1
2	//	排尿障害・頻尿治療薬	C13 (2) -2-1, 2 C13 (2) -6-1
3	循環器系に作用する薬	心不全治療薬	C13 (2) -4-2 C13 (2) -6-1
4	//	抗不整脈薬、虚血性心疾患治療薬	C13 (2) -4-1, 3 C13 (2) -6-1
5	//	末梢血管拡張薬、高血圧・低血圧治療薬	C13 (2) -4-4 C13 (2) -6-1
6	//	脂質異常症治療薬	C13 (3) -5-2 C13 (3) -7-1
7	呼吸器系に作用する薬	呼吸興奮薬、鎮咳・去痰薬	C13 (2) -5-1, 2 C13 (2) -6-1
8	//	気管支喘息治療薬	C13 (2) -5-3 C13 (2) -6-1
9	消化器系に作用する薬	健胃消化薬、消化性潰瘍治療薬	C13 (3) -2-1 C13 (3) -7-1
10	//	胃腸機能改善薬、鎮痙薬、催吐・制吐薬	C13 (3) -2-2, 3 C13 (3) -7-1
11	//	瀉下・止瀉薬、肝・胆・膵臓機能改善薬	C13 (3) -2-4, 5 C13 (3) -7-1
12	生殖器系に作用する薬	子宮収縮・弛緩薬	C13 (2) -2-1, 2 C13 (2) -6-1
13	//	避妊薬、性機能不全治療薬	C13 (3) -1-1, 3 C13 (3) -7-1
14	血液・造血器系に作用する薬	貧血治療薬	C13 (3) -4-3 C13 (3) -7-1
15	//	止血薬、血液凝固阻害薬、血栓溶解薬	C13 (3) -4-1, 2 C13 (3) -7-1

■ 授業分担者

No.1～15：菱沼 滋

■ 成績評価方法

学期末試験の成績（100 %）で評価する。

■ 教科書

『図解表説 薬理学・薬物治療学』菱沼 滋 著（ティ・エム・エス）

■ 参考書

『薬理学－医薬品の作用』竹内 幸一 他 編著（廣川書店）

『NEW 薬理学』田中 千賀子 他 編著（南江堂）

『グッドマン・ギルマン薬理書（上・下）』高折 修二 他 監訳（廣川書店）